

2015年1月5日

三菱レイヨン社長 越智 仁 2015年 年頭挨拶(要旨)

三菱レイヨン株式会社

我々三菱レイヨンは、ここ数年の厳しい状況から漸く抜け出し、確実に実行してきた戦略の成果を刈り取り始めたと思っています。これも皆さんの日々の努力の結果だと思えます。有難うございます。

世の中では ROE5%が企業が存続していく最低限の条件とも言われており、望むべくは ROE8%とも言われています。この目標を達成する中で、環境、資源・エネルギー、COMFORT を考慮していくことにより MOS の目標も同時に達成し、それが KAITEKI 価値の創造につながっていくことは言うまでもありません。APTSIS15 の最終年度である 2015 年度は、営業利益 300 億円、MOS 指標 300 点の達成に向けてチャレンジしたいと強く思っています。

これらの目標を達成していくうえで最も重要なのが、安全安定生産の確保とコンプライアンス違反の根絶です。今年は、従来の「一人ひとりが考える」、「真因究明」、「TPM」に加え、「4M 変更管理」、「設備のリスク評価」などにより、是非 2015 年の事故・労災の発生件数を半減していきたいと思えます。

第 2 点は、事業構造改革と成長に向けた展開です。基本的な事業構造改革はほぼ終え、今後 MMA、炭素繊維、アクア事業をしっかりと成長させることが重要です。その為には 5 年先をにらみマーケットニーズを先取りし、新製品の開発とビジネスの仕組みづくりを行うことが重要です。そしてその上に 10 年先を考えた新たな製品開発を行うことだと思えます。

第 3 点は、グローバルオペレーション体制の確立です。現在 MMA 事業を手始めに、海外を含めて縦筋一本で事業運営ができるように改革を行っています。しかしそれだけでは不十分なのです。海外において事業を拡大する上でも、マーケティング、テクニカルサービスの充実と現地化が必要であり、人事制度、内部統制システム、教育制度などの機能を積極的に海外に出て構築することが必要です。

第 4 点は、生産体制の高度化と人材育成です。MMA 事業は世界一です。炭素繊維・複合材料事業、アクア、バイオ触媒、繊維の各事業も世界一を狙っているのです。その為に生産性の高度化、品質、コスト、安定性、設備の信頼性などレベルを上げなくてはなりません。それに欠かせないのが、人材の育成です。運転から生産技術まで全ての人のワンランクアップをお願いしたい。

第 5 点はコミュニケーションです。経営から第一線へ、第一線から経営へ、スムーズな情報の流れが必要です。また職場では、お互いを尊敬した会話が必要です。風通しの良い職場を作っていきましょう。

今年は、APTSIS15 の仕上げと、次期中期経営計画を作っていきます。計画は、希望や期待で作ることはできません。我々が日頃行っているアクションと市場動向、競合の動き、未来の世界の動きなどの十分な解析により生み出される戦略やアクションプログラムが重要です。皆さんが苦心して一の矢だけでなく、二の矢、三の矢を考え、作り上げることが重要です。皆さんの苦心作を楽しみにしております。

今年は「乙未(きのとひつじ)」です。乙には種子が地中で時期の来るのを待っている状況を示し、未には非常に縁起が良く目出度いという意味があります。我々がここ 3 年間苦しい中、いろいろ考え実行してきたことに花を咲かせるいい年にしたいと思います。「我々一人一人が積極的にチャレンジ」していきましょう。

以上